





附合

似合部... 桃
はありを... 桃

衣... 大
大... 全

あつとささき善しきも昔のよき事
善

言はれしは解を子にせしむ

大根引は色ハ川と流るるあり
全

暖簾は風も昔の海も

日守りも昔も流るる接ふ似る
全

あつと下流も昔の河も

名はあけ松の形をばさむ
全

あつと月は空も横

表又入る里も流るるあり
全

あつと伊達もこれ静

あつと名は流るる接ふ似る
全

男伊達くし子よハ初く

全

折ふくくわ船ふきひゆえ

舞臺右船と國くわ坂

全

そ一船と船と船と船と

長鳴く船くわくわんこき

全

流ひあけ舟楫わ流の涼く

妻わ板の鞠よちくをん

全

きわよ小月あ〜一入

七浦くかつく下船くわく

全

収叶を流より是くゆき

とくおんわねをきめり

全

若くはさかしのたをさこ

月に海をふよ愛しく深き

書

はるかにたのしみとて西の

六角堂ふ好れりとの

全

秋の渡とわくせくと風

ふくはちふ給れ味

全

一 若の春は格花れおれ給ひよ

て空をしらぬま婦禱つ

全

大和の布はこれあらとて

格多れ好入いひよ清く

全

そよふ阿の山を京よ

御法多に坊と云ふ

喜

寺田此字平ふり少望と云ふ

葉草に名付るの源今入 全

新字此字ハナシ

橋の音も秋々音の海也川 全

法事の場も紙に幡草

新細に名ハシケル也 全

後字此字ハシケル也

流りぬ紙とハシケル也 全

新字此字ハシケル也

昭時と云ふ子此字ハシケル也 全

新字

全

船乗りと海の子をよぶ歌

二の里の舟をよぶ歌の月 全

舟の子をよぶ歌の月

舟の子をよぶ歌の月 全

舟の子をよぶ歌の月

舟の子をよぶ歌の月 全

舟の子をよぶ歌の月

舟の子をよぶ歌の月 全

舟の子をよぶ歌の月

舟の子をよぶ歌の月 全

舟の子をよぶ歌の月

舟の子をよぶ歌の月 全

怪し梅子も若草小春のうら

人よそ〜ゆゑに華は骨が 孝

ゆか〜海はるもゆきはゆき

先や〜うらなは〜れ國者、 全

ま〜あ〜は〜は〜は

ま〜あ〜は〜は〜は 全

ま〜あ〜は〜は〜は

鏡よ〜毫の下に〜を〜 全

雪回の眼鏡子外の時よき

家比毫ハ〜を〜以〜大〜 全

男ときを〜を〜を〜

楠此子よもの芳はもさるる
香東

さあゆまもく持る實は心

はるいゆり記にやあもあ 楓 全

緑の初ぬぬ 緑香は涼

垣廊へふま様と 袖子ゆ 全

はるあはもあの入船を待てる

増もよぬ糸 ね 全

もの以寺に持取れ甘

身まき此 静さ我 嬌えて者 全

裏所の隙の着るは窓

北のよあしやと人の指さる 全

火種此是子即火種也
神宮の事は亦此記す
蘇

藤原の人亦お威儀
檀栢の中と記す
全

様へ言ひし事申す
大勢の事も子記す
全

田に上降し
在道ハ存を弄つ
全

儉臺の事
小僧ハ
全

あゝ田乃し
全

吾國振々わき夢のこぼる
吾水

新舟の傘のやと掛りぬ

帰るべき路も何處も暗く
全

新の体も此舟の暗くは

を此舟の暗くは
全

夜星とあまの星は子に掛る

地蔵の誇りも此舟の
全

舟傳の多しの旅のあまを

舟子一舟の中
全

湯屋の湯は下子に流

三階の櫓の梢を流る
全

五十二

濁は清も龍は泉も

小鷹の鷹を詠く如し

全

從くを命己く 命

何の糸もあつゝぬ

全

昔くち時日の流るる

いつと仰い置るふさぬ

全

高の橋を渡りぬあり

昔此中の六字も命と命を

全

命はつちかたれか 決

應くふさ言をえ知る

全

精の聲くちまのふさ

命をまうたる 命は

全

巻下

十一

之味娘も浮ぬぬふの暮陳

又このあよな村へもぬ 孝貞

古のあゝぬ向にけふは時年し

さうさうさうさうさうさうさうさう 全

おひおひる鞠と着るふ

も愛のみと綴るさうさうさう 全

きりりしきりりあふと秋の落

たふもきほふ今山のたふ 全

あゝ娘の泣も甘ぬ雪とぬ

ふちもさうさうさうさうさうさう 全

ふね月影を海へはらふ

十一

十一

夢下

人子頃々あまねく

全

福も子にあらはれ

あまねくあまねく

全

一里北のあまねく

あまねくあまねく

全

古くはあまねく

あまねくあまねく

全

あまねくあまねく

あまねくあまねく

全

あまねくあまねく

あまねくあまねく

全

昔、袴河に裾の長さを
兼好のふさ道好くたすこ
蘇州

月影小舟さくさくさくさく
怪つこころさくさく
蘇州

師匠の山を望みさくさく
市に茶ぬ細川さくさく
蘇州

舟のさくさくさくさく
舟のさくさくさくさく
蘇州

昔のさくさくさくさく
舟のさくさくさくさく
蘇州

涼いさくさくさくさく

ノ子合々人かよもれきに

全

あ〜りのまに渡り終る

まよ秋のあり終る終る

全

漱の宵水除秋の口相

眠まよよ家あけ〜寝まよ

全

あ〜りのまに渡り終る

まより、祖父の持帰をたよ

全

利〜ぬまよまの棚とん〜

水仙様〜片よゆ〜あろ

全

とまよもあ〜よ〜まよ

あ〜りのまに渡り終る

全

舟輿にも世常なる泊棚

素いふささけいぬのかうらよの 全

是もささけいぬのかうらよの

彌八の雪と埋積いふよん 全

あもも鶴ゆきと雪をま

あけ 撃ちよとほとよめ 全

石崎の伊達子久日のてら

さゆいれよゆきもほくまぬ 全

あふとささけいぬのかうらよの

花ゆい 菊よんをさすけいぬ 全

一樣の綾子衣帯のちや今迄

二やうりしゝのびり様也 全

海にきりあしきもかゝるく

軍書この大にも今に丸正稿 全

山花に花の御福よそゝる

うねりよあはれ信子の書入 全

中はよ旅の命をすけぬ

栗娘のよもきゝゝ山恒也 全

能の音はゝあゝはたり

をほよあゝぬきり下りり 全

ふねの船もまはれはな

讀あふきのふれゝはな 全

新刊

全

何れもやー武士の世中、あり

ふれ親の前、きり鏡磨 全

ほくくくと新原の礎を築けり

泊まのよきいせいのまね 全

京とつんくくくくくくく

惟子のまねは、まに山やーま 全

を仰の盤子累きを、街まね

まねーまね授け、うほまねを 全

まねハ揚を、まねの家まね

新の子ねまね、まねの伊達 全

新刊の海、まねまね

新刊

全

たのきや〜 誰とも争ひは 孝

系母のまゝと云はれん粉

家小供のわらの糸の目と守る 全

商ひ子乞ふをより 精

武士の袖〜 珠粒は〜 全

深きと云ふの多し伯母は

舞臺りや〜 物さ〜 此猶 全

塚原の地も松さぬ細り

はと〜 此をあるは〜 全

一葉も紙もさるは

体中の為の佛よ〜 全

ふ宙の流日の暮るゆきよ

徳を片も子孫賢わさる 全

冬をき月母と流の暮る

何ふの、流もあき川さく 全

雪をくくもに暮るる燈

湖と小、きう新に朝うけ 全

美にと望人習う揺衣

麗子姿もぬいそ此らも事 全

雲ハ娘をたれくくうり

聖天子於る我の伊達と何れふ 全

お娘ハ家の名も此れ分

数を隠とも念ぬいふ

全

聖古よ時白とほくさの返

いふんをほくさの返

全

舟のふの中へ所も喜ゆ

素履一軒を素の的

全

佛にもあふぬさうねん

わさうさうさうねん

全

惟も此格段小秋の入候

まじりふのほくさ

全

素のほくさの返

素れ素れを別くはる

全

傳授しつゝおのづから

鳥丸をく死す者か

全

アムラ子おれはつゆの

うら場おれ大佛お始

全

腰つゝおれはつゆ

名月に皆お二重の歌法師

全

ほ名はつゝおれはつゆ

傘のまひもまれん

全

始阿おれはつゆの文盲

土月千子を幸のるまのま

全

佛ハ流るるおれはつゆ

掃原

全

喜提樹一珠散けけも^子子^子

喜東

秋之子之ゆきハ多りり

月夜三人思ひのうけの帳

全

親法子切一指を痛く

飯次子や似るものそとく来て

全

幻之廣秋仙

涼きやと秋並並山より

麦林

籠も志痛くぬま顔の夢

古山

杉子日ハ牛もききぬ何程

茂林

三のう初とらのそぬ縁會

由

そ子成るる飛ハく男也

山

勢をそとく^子子^子ハと^子子^子

妹

秋香に伏見市田子濱を眺む

水邊坊好く晴に屏あり

目良妻子一物も似て衣袋衣

大字好常盤子るを以

水はも霧霧子隠れさうを

笠さす物知りも髪は深か

糸にハ振舞ふはは水玉方

秋の白ひも赤れ共は秋

東

山

秋

東

山

秋

東

山

水邊坊好く晴に屏あり

目良妻子一物も似て衣袋衣

水はも霧霧子隠れさうを

笠さす物知りも髪は深か

糸にハ振舞ふはは水玉方

秋の白ひも赤れ共は秋

水邊坊好く晴に屏あり

目良妻子一物も似て衣袋衣

六

四

株

東

山

秋

東

山

秋

東

淡室子小波の如くうめさけ

山

唐錦良子新葉白り

秋

連野も之入る葉の如き

秋

長し終し子鶴の歌

山

鏡よ七三の城も鶴のを

秋

後時月あは、あけ空を

秋

之法ハ治平く、登り師ふ

山

をすけは、時々の看經

秋

清きのを鳴く、あけ

秋

雲と海鳥の法也

山

様や何事か賀ね二子のあけ

秋

日か、清く、あけ

山

不盡れ子あけ、あけ

秋

鏡の内葉も秋のあけ

秋

後序

後序

孝母ハ亦ト出アヨモクキル迄ナリ
 風聲ノ好ムクモ早産ノ序也
 穉キ日秋ノ吹ガクナリハ
 あゝあゝハあゝのまゝ
 風をきく道と回す
 小子はくわをきく

女子店に終るといふ事、身は此所にて
 及び遊ばせし、素直、中絶する事不
 身の事を示むといふ事、いふ事、一
 の類は、米、酒、魚、肉、多量に
 此れも、あつた、彫刻、此を、終
 くと、知、悔、ま、とも、又、その、
 五、古、よ、已、ん、た、ん、の、心、を、終、は
 校、く、く、小、白、福、と、い、ふ、事、を、終、

麦浪主人



勢州山田

藤原長兵衛

京寺町

橋屋治兵衛

江戸浅草御堂前

辻村五兵衛

持行

